

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY

2026.5
No. 788



目次

[大学の動き]

● 理事が発令される	6299
● 副学長が発令される	6299
● 副理事が発令される	6300
● 理事補が発令される	6300
● CIOが発令される	6300
● 部局長の交替等	6301
● 名誉教授称号授与式を挙行政	6305
● 2025年度永年勤続功労表彰式を挙行政	6306
● 第18回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を開催	6307
● 令和7年度「総長賞表彰式」を挙行政	6309
● 令和7年度卒業式を挙行政	6310
● 令和7年度大学院学位授与式を挙行政	6311
● 令和8年度学部入学式を挙行政	6316
● 令和8年度大学院入学式を挙行政	6318
● 京都インターナショナルスクールとMOUを締結	6321
● 第12回京都大学-稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催	6321
● 2025年度「女子学生チャレンジプロジェクト」成果発表会を開催	6322
● 「京都大学ポスターセッション2025」を実施	6323
● 第5回現役留学生と卒業留学生が繋がる会「教えて先輩!卒業後の進路、そのリアル」(presented by台湾留学生会)を開催	6325
● Kyoto University SPIRIT2 Award 2026の受賞者が決定	6326

[部局の動き]

● 第21回京都大学附置研究所・センターシンポジウムを開催	6328
-------------------------------	------

● 第9回京都大学-マヒドン大学On-site Laboratoryワークショップを現地とオンラインのハイブリッドで開催	6329
● 医学部附属病院が令和7年病院長賞表彰式を挙行政	6331
● 海外の大学間学生交流協定締結校への短期派遣プログラムを実施(インドネシア大学・ウィーン大学)	6332
● 生態学研究センター、野生動物研究センター、フィールド科学教育研究センターおよびパナソニックホールディングス株式会社が、「生態フィールド学系産学術交流会」を開催	6334
● フィールド科学教育研究センターとパナソニックホールディングス株式会社が森里海連環学の推進およびネイチャーポジティブの実現に向けた連携を発表、寄付贈呈式を開催	6335
● 第10回森里海シンポジウム「身近な自然を見つめなおす~ネイチャーポジティブの実現に向けて~」を開催	6337

[寸言]

木を彫り、木に聞く 村尾 和俊	6339
-----------------	------

[随想]

ローマ散歩 名誉教授 林 信夫	6340
-----------------	------

[洛書]

5億年の実感 山岡 尚平	6341
--------------	------

[栄誉]

● 松田祐司 名誉教授、金光義彦 名誉教授および原田博司 情報学研究科教授が紫綬褒章を受章	6342
● 松波弘之 名誉教授、木本恒暢 工学研究科教授および西川博嘉 医学研究科教授が日本学士院賞を受賞	6344

[話題]

● 本学所蔵の『建内記』が重要文化財に指定	6346
-----------------------	------



京都大学

所属・職名については、行事開催時点のものです。

大学の
動き

理事が発令される

4月1日付けで理事が任命されました。任期は以下のとおりです。



産官学連携担当

澤田 拓子 (再任)
【令和8年9月30日まで】



広報担当

野崎 治子 (再任)
【令和8年9月30日まで】



総務・労務・評価・IR・
危機管理担当

吉田 光成 (新任)
【令和8年6月30日まで】

[目次に戻る ↗](#)

副学長が発令される

4月1日付けで副学長が任命されました。任期は令和8年9月30日まで。



学術研究支援担当

石川 冬木 (再任)



法務・コンプライアンス担当

塩見 淳 (再任)



学生支援担当

高倉 喜信 (再任)



京大将来ビジョン担当

立川 康人 (新任)

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

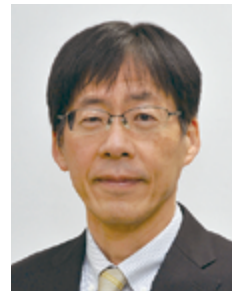
副理事が発令される

4月1日付けで副理事が任命されました。任期は令和8年9月30日まで。



桂キャンパス担当

鈴木 基史 (新任)



宇治・遠隔地キャンパス担当

島川 祐一 (新任)



監査担当

塩見 淳 (再任)



社会連携・イノベーション
推進担当

室田 浩司 (再任)



総務・調整、業務改革担当

横山 陽一 (再任)

[目次に戻る ↗](#)

理事補が発令される

補佐する理事	氏名	任期	
DEIB 担当理事	タムケオ ディーン	令和8年4月1日～令和8年9月30日	(新任)
財務担当理事	喜多 幸之助	令和8年4月1日～令和8年9月30日	(CIO) (新任)
広報担当理事	塩瀬 隆之	令和8年4月1日～令和8年9月30日	(再任)
広報担当理事	西山 伸	令和8年4月1日～令和8年9月30日	(再任)
労務担当理事	島田 裕子	令和8年4月1日～令和8年6月30日	(新任)

[目次に戻る ↗](#)

CIOが発令される

2026年4月1日付けで、CIO (Chief Investment Officer : 最高投資責任者) に元ラッセル・インベストメント株式会社の喜多幸之助 (きた こうのすけ) 氏が任命されました。

本学は、国立大学としていち早くリスク性資産の運用に着手し、運用規模の拡大とともに、運用対象の拡充や手法の高度化を着実に進めてきました。これらの取り組みをさらに発展させ、

大学の
動き

資金運用機能を一層戦略的に強化するため、CFOの統括のもと、機動的かつ一貫した運用判断を担うCIOを新たに任命することとしました。

本学は、「自由の学風」のもとで培ってきた学術研究の卓越性を基盤に、世界に伍する研究大学として、財政面においても公的・競争的資金への依存にとどまらない自立した大学運営の確立を目指しています。今回のCIO就任を通して、資金運用における専門性と透明性を一層高め、教育・研究活動の持続的な発展を力強く支える経営基盤の強化に取り組んでいきます。

[目次に戻る ↗](#)

部局長の交替等

【新任】

文学研究科・文学部長

喜多千草 文学系(大学院文学研究科)教授が、出口康夫 文学研究科長・文学部長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。



教育学研究科長・教育学部長

南部広孝 教育学系(大学院教育学研究科)教授が、齊藤 智 教育学研究科長・教育学部長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。



薬学研究科長・薬学部長

山下富義 薬学系(国際高等教育院)教授が、竹本佳司 薬学研究科長・薬学部長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。



工学研究科長・工学部長

鈴木基史 物理工学系(大学院工学研究科)教授が、立川康人 工学研究科長・工学部長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。



大学の
動き**アジア・アフリカ地域研究研究科長**

中溝和弥 地域研究学系(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)教授が、山越 言 アジア・アフリカ地域研究研究科長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**情報学研究科長**

田中利幸 情報学系(大学院情報学研究科)教授が、五十嵐 淳 情報学研究科長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**公共政策連携研究部長・公共政策教育部長**

諸富 徹 経済学系(大学院公共政策連携研究部)教授が、曾我謙悟 公共政策連携研究部長・公共政策教育部長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**経営管理研究部長・経営管理教育部長**

山田忠史 地球工学系(大学院経営管理研究部)教授が、澤邊紀生 経営管理研究部長・経営管理教育部長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**医生物学研究所長**

朝長啓造 医生物学系(医生物学研究所)教授が、河本 宏 医生物学研究所長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**生存圏研究所長**

小嶋浩嗣 生存圏科学系(生存圏研究所)教授が、山本 衛 生存圏研究所長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。



大学の
動き**防災研究所長**

渦岡良介 防災学系(防災研究所)教授が、堀 智晴 防災研究所長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**数理解析研究所長**

並河良典 数理解析学系(数理解析研究所)教授が、大木谷耕司 数理解析研究所長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**東南アジア地域研究研究所長**

岡本正明 地域研究学系(東南アジア地域研究研究所)教授が、三重野文晴 東南アジア地域研究研究所長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**iPS細胞研究所長**

江藤浩之 iPS細胞学系(iPS細胞研究所)教授が、高橋 淳 iPS細胞研究所長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**ヒト行動進化研究所長**

中村克樹 全学教員部(ヒト行動進化研究センター)教授が選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**学術情報メディアセンター長**

緒方広明 情報学系(学術情報メディアセンター)教授が、森 信介 学術情報メディアセンター長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。



大学の
動き**グローバル・エンゲージメント・オフィス長**

榎木哲夫 理事が選出されました。任期は令和8年4月1日から令和8年9月30日まで。

**大学院教育支援機構長**

大嶋正裕 国際高等教育院特定教授が、平島崇男 大学院教育支援機構長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和8年9月30日まで。

**アフリカ地域研究資料センター長**

高田 明 地域研究学系（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）教授が、伊谷樹一 アフリカ地域研究資料センター長の後任として選出されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

**【再任】****経済学研究科長・経済学部長**

若井克俊 経済学系（大学院経済学研究科）教授が、経済学研究科長・経済学部長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和9年3月31日まで。

農学研究科長・農学部長

田尾龍太郎 農学資源経済学系（大学院農学研究科）教授が、農学研究科長・農学部長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和9年3月31日まで。

総合生存学館長

村上 章 大学院教育支援機構特定教授が、総合生存学館長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和9年3月31日まで。

地球環境学堂長・地球環境学舎長

田中千尋 生物生産環境学系（大学院地球環境学堂）教授が、地球環境学堂長・地球環境学舎長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

化学研究所長

島川祐一 統合化学系（化学研究所）教授が、化学研究所長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和9年3月31日まで。

大学の
動き

経済研究所長

關口 格 統合経済学系（経済研究所）教授が、経済研究所長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

医学部附属病院長

高折晃史 臨床医学系（大学院医学研究科）教授が、医学部附属病院長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和9年3月31日まで。

学生総合支援機構長

高倉喜信 白眉センター特定職員が、学生総合支援機構長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和8年9月30日まで。

白眉センター長

高倉喜信 白眉センター特定職員が、白眉センター長に再任されました。任期は令和8年4月1日から令和10年3月31日まで。

[目次に戻る ↗](#)

名誉教授称号授与式を挙

2026年4月6日（月）午後3時から、百周年時計台記念館において、総長、理事、監事、副理事、副学長の出席のもとに名誉教授称号授与式を挙りました。

総長より称号を授与された方は、次の64名です。

氏名	推薦部局	氏名	推薦部局
深谷 賢治	理学研究科	藤原 耕二	理学研究科
黒橋 禎夫	情報学研究科	池田 裕一	総合生存学館
中川 尚史	理学研究科	鹿内 利治	国際高等教育院
辻井 敬亘	化学研究所	ミツヨ・ワダ・マルシアーノ	文学研究科
東長 靖	アジア・アフリカ地域研究研究科	大崎 純	工学研究科
山本 章博	情報学研究科	濱地 格	工学研究科
大江 浩一	工学研究科	白川 昌宏	工学研究科
谷村 吉隆	国際高等教育院	高橋 淑子	理学研究科
寺内 良平	農学研究科	伊佐 正	医学研究科
秋山 芳展	医生物学研究所	佐藤 健司	農学研究科
大木谷 耕司	数理解析研究所	河崎 靖	人間・環境学研究科
今谷 勝次	エネルギー科学研究科	井鷲 裕司	農学研究科
松下 佳代	教育学研究科	高木 郁二	工学研究科
西山 慎一	経済学研究科	小関 隆	人文科学研究科

大学の
動き

氏名	推薦部局	氏名	推薦部局
三澤 毅	複合原子力科学研究所	木上 淳	情報学研究所
林 達也	人間・環境学研究所	大沢 信二	理学研究科
松本 智裕	生命科学研究科	大垣 英明	エネルギー理工学研究所
下林 典正	理学研究科	三浦 清貴	工学研究科
穴倉 光広	理学研究科	松田 文彦	医学研究科
花崎 秀史	工学研究科	山本 潤	理学研究科
竹本 佳司	薬学研究科	向川 均	理学研究科
乾 晴行	工学研究科	伊谷 樹一	アジア・アフリカ地域研究研究科
木津 祐子	文学研究科	竹島 浩	薬学研究科
山本 衛	生存圏研究所	加藤 博章	薬学研究科
稲葉 穰	人文科学研究所	石田 厚	生態学研究センター
佐々木 豊	理学研究科	竹田 晋也	アジア・アフリカ地域研究研究科
小山 哲	文学研究科	永益 英敏	総合博物館
塩見 淳	法学研究科	田村 実	理学研究科
北島 薫	農学研究科	太田 耕司	理学研究科
松原 厚	工学研究科	出口 康夫	文学研究科
藤井 康友	医学研究科	荒川 知幸	数理解析研究所
和久井 理子	法学研究科	岩下 直行	公共政策連携研究部



挨拶を述べる湊総長



集合写真

(人事部(人事企画課))

[目次に戻る ↗](#)

2025年度永年勤続功労表彰式を挙

2026年3月31日(火)に、永年勤続功労表彰式を本部棟5階大会議室において挙、湊長博 総長、被表彰者18名が出席しました。

本表彰は、勤続年数が30年以上の教職員に対し、その永年にわたる功労をたたえるためのもので、2025年度の被表彰者は42名でした。

大学の
動き

表彰式では出席の被表彰者の氏名を紹介した後、湊総長が代表者に表彰状を授与し、祝辞を述べました。祝辞では永年本学の発展のために一人ひとりが尽力してきたことに対し、謝意が表されました。

祝辞の後は各々が交流を深め、和やかな雰囲気の中、式は終了しました。



表彰状授与



祝辞を述べる湊総長



出席された被表彰者との集合写真

(人事部(労務課))

[目次に戻る ↗](#)

第18回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式を開催

優れた研究成果を挙げた京都大学の若手女性研究者を顕彰する制度である、京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）の第18回表彰式を2026年3月5日（木）に開催しました。

表彰式は、本部棟5階大会議室でのオンサイト開催およびライブ配信形式で実施しました。

最初に選考委員長である稲垣恭子 理事・副学長から、選考経緯に関する報告を交えた開会の挨拶があり、引き続き、たちばな賞研究者部門受賞者の大野雅恵 高等研究院特定講師、学生部門受賞者の木村香純さん（アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程4年生）に、湊 長博 総長から表彰状と記念楯が授与されました。続いて、副賞の「ワコール賞」が篠塚厚子 株式会社ワコール取締役執行役員マーケティング本部長兼IWブランド統括部長から贈呈されました。

また、優秀女性研究者賞奨励賞の受賞者である生越ひかりさん（工学研究科博士後期課程2年生）、戸部有紗さん（理学研究科博士後期課程3年生）にも、同じく湊総長から表彰状と篠塚取締役執行役員から副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。

大学の
動き

その後、湊総長から受賞者へ祝福の言葉と女性研究者のさらなる活躍を期待するエールが送られ、篠塚取締役執行役員から受賞者へ祝辞が述べられました。

引き続き、たちばな賞受賞者による研究発表が行われ、大野特定講師は「新規のゲノム構造解析技術の開発により遺伝子が働く仕組みを解き明かす」、木村さんは「植民地期ケニアにおける出版偏向を解明し、AI学習データの歴史的空白を是正する人文知の社会適用を提示する」というテーマで発表を行い、会場の関係者は熱心に聞き入っていました。

最後に、奨励賞受賞者の生越さん、戸部さんから挨拶があり、受賞者たちの優れた発表が光る会となりました。



開会の挨拶を述べる稲垣理事・副学長



祝辞を述べる湊総長



祝辞を述べる篠塚取締役執行役員



表彰状・記念楯授与の様子



受賞者による研究発表の様子



受賞者および関係者

(DEIB 推進室)

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

令和7年度「総長賞表彰式」を挙

学業・課外活動・社会貢献活動等において顕著な活躍をし、本学の名誉を高めた学生および学生団体を表彰する「京都大学総長賞」の令和7年度表彰式を、2026年3月13日(金)に挙

行しました。
今回は、全16件の推薦の中から選考の結果、学業から3名、課外活動から2名の受賞者が表彰されました。

湊 長博 総長が表彰状等の授与を行った後、湊総長と受賞者が受賞内容について懇談を交

令和7年度総長賞受賞者一覧

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
農学研究科応用生命科学専攻 博士後期課程3回生 イマイズミ コウ 今泉 滉	学業	<ul style="list-style-type: none"> 光合成の根幹反応の効率を世界で初めて向上させるなど、常識を覆す成果で光合成研究に多大に貢献。 光合成の中核を担う光エネルギー変換装置の光化学系II(PSII)に関して、その反応効率を飛躍的に高める世界初のアミノ酸変異を発見、仕組みを解明。 国際誌の筆頭著者論文6報、国際学会等で受賞7件、国際会議の運営代表に選出。
理学研究科物理学・宇宙物理学専攻 博士後期課程3回生 カワモト タイシ 川本 大志	学業	<ul style="list-style-type: none"> 物理学最大の未解決問題の一つである「量子重力理論における情報喪失問題」に対し素粒子論・統計力学・量子情報理論という本来は独立した三分野を融合させた独創的研究手法を確立、数学的に厳密な枠組みによる世界初の解明に迫った。 学術誌への単著論文掲載、査読付き論文10本を出版、国際会議・セミナーでの招待講演15件、学術賞5件の受賞歴あり。 素粒子論分野で最も権威ある国際会議「Strings」で世界中の若手から厳選されるStrings Fellowshipsに2年連続で選出。
医学研究科医学専攻 博士課程4回生 タケウチ マリエ 竹内 万理恵	学業	<ul style="list-style-type: none"> 鳥類有毛細胞再生における新たな分子制御機構を解明し、ヒト難聴への新規治療戦略の基盤を開拓。 世界的にも希少となる鳥類有毛細胞再生実験系を駆使した独創的な研究により、有毛細胞再生における新しい分子メカニズムを解明。 Proceedings of the National Academy of Sciences (PNAS) 誌に掲載、国内学会受賞を通じて高く評価される。
教育学部4回生 京都大学熱気球部(代表) カザハリ リョウタ 風張 僚太	課外	<ul style="list-style-type: none"> 第29回熱気球全日本学生選手権にて総合優勝、第52回北海道バルーンフェスティバル(BLS部門)にて優勝、両大会において、代表者(パイロット)は教育学部4年の風張僚太が務めた。

大学の
動き

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
法学部 4 回生 / 工学部 4 回生 京都大学ヨット部 スズキ リョウタロウ 鈴木 亮太郎 (代表) / ソワ ノブアキ 岨 伸明	課外	・ 2025 年度全日本学生ヨット個人選手権大会 (2025 年 8 月 27 日から 31 日にかけて豊田自動織機 海陽ヨットハーバーにて開催) で優勝。本学史上初、旧帝大 32 年ぶりの快挙。スポーツセクション制度を有する私立大学強豪校が選手層・活動資金・競技艇などの機材面において圧倒的に優位性を誇る中、国立大には不可能とされた壁を破り全国制覇を達成。本学の名誉と存在感を全国に知らしめることに貢献。



表彰式の様子



受賞者および関係者

(学務部 (学生支援課))

[目次に戻る ↗](#)

令和 7 年度卒業式を挙行

2026 年 3 月 23 日 (月) に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、プロボスト、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、卒業式を挙行しました。湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

学位授与者数は次のとおりです。

学士

学位名	2026 年 3 月 10 日、 23 日付け			左記のうち 留学生数			旧制 卒業生数	累計
	男子	女子	計	男子	女子	計		
総合人間学部	77	34	111	0	2	2	-	3,808
文学部	134	98	232	0	1	1	4,711	19,137
教育学部	28	40	68	0	1	1	-	4,228
法学部	227	78	305	0	1	1	14,531	40,682
経済学部	189	49	238	2	3	5	8,067	25,416
理学部	281	30	311	3	2	5	2,984	21,627
医学部 (医学) ^{※1}	90	17	107	0	0	0	5,673	13,603
医学部 (人間健康科学) ^{※1}	36	58	94	0	0	0	-	2,434

大学の
動き

学位名	2026年3月10日、 23日付け			左記のうち 留学生数			旧制 卒業生数	累計
	男子	女子	計	男子	女子	計		
薬学部（薬学） ^{※1※2}	8	8	16	0	0	0	-	4,136
薬学部（薬科学）	51	20	71	0	0	0	-	958
工学部	819	96	915	19	7	26	8,606	71,080
農学部	179	118	297	1	2	3	3,392	22,716
小計	2,119	646	2,765	25	19	44	47,964	229,825
附属医学専門部	-	-	-	-	-	-	804	804
理工科大学	-	-	-	-	-	-	944	944
総計	2,119	646	2,765	25	19	44	49,712	231,573

※1：医学部（医学）は平成22年度より3月10日付け卒業

薬学部（薬学）は平成26年度より3月10日付け卒業

医学部（人間健康科学）は平成29年度より3月10日付け卒業

※2：薬学部（薬学）は4年制の薬学部（薬学）を含む（平成18年度より6年制に改組）



式典に臨む卒業生



学位授与式の様子

(学務部(学務課))

[目次に戻る ↗](#)

令和7年度大学院学位授与式を挙行

2026年3月23日(月)に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、プロボスト、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、大学院学位授与式を挙行了しました。湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

学位授与者数は次のとおりです。

修士

学位名	2026年3月23日付け			左記のうち留学生数			累計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
修士（文学）	59	35	94	4	8	12	5,849
修士（教育学）	16	24	40	2	4	6	1,806
修士（法学）	12	3	15	9	3	12	1,626
修士（経済学）	40	15	55	13	11	24	2,342
修士（理学）	248	38	286	10	1	11	13,232

大学の
動き

学位名	2026年3月23日付け			左記のうち留学生数			累計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
修士（医科学）	12	16	28	5	11	16	543
修士（人間健康科学）	27	47	74	1	2	3	1,044
修士（薬科学）※ ¹	31	22	53	0	1	1	911
修士（工学）	567	81	648	32	16	48	38,085
修士（農学）	174	102	276	16	10	26	12,787
修士（人間・環境学）※ ²	71	57	128	20	19	39	4,479
修士（エネルギー科学）	115	9	124	7	2	9	3,602
修士（地域研究）※ ³	11	10	21	0	0	0	564
修士（情報学）	194	16	210	44	7	51	5,018
修士（生命科学）	29	23	52	5	1	6	1,961
修士（総合学術）※ ³	3	1	4	0	0	0	90
修士（地球環境学）	19	13	32	5	3	8	912
修士（文学）※ ⁴	3	1	4	2	1	3	53
修士（グローバル経済・地域創造）※ ⁴	0	0	0	0	0	0	26
修士（社会健康医学）	-	-	-	-	-	-	66
修士（薬学）	-	-	-	-	-	-	2,299
総計	1,631	513	2,144	175	100	275	97,295

※留学生数は在留資格「留学」のみ

※1：修士（薬科学）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者1名含む

※2：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者9名を含む

※3：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

※4：国際連携教育課程

修士（専門職）

学位名	2026年3月23日付け			左記のうち留学生数			累計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
社会健康医学修士（専門職）	15	16	31	2	0	2	700
公共政策修士（専門職）	25	8	33	2	4	6	757
経営学修士（専門職）	45	47	92	17	29	46	1,568
総計	85	71	156	21	33	54	3,025

※留学生数は在留資格「留学」のみ

法務博士（専門職）

学位名	2026年3月15日付け			左記のうち留学生数			累計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
法務博士（専門職）	87	53	140	0	0	0	3,195
総計	87	53	140	0	0	0	3,195

大学の
動き

博士 令和7年11月25日付、令和8年1月23日付、3月23日付

■課程博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数 [※] ）									総計	旧制授与者数	累計
	2025年11月			2026年1月			2026年3月					
	男子	女子	中計	男子	女子	中計	男子	女子	中計			
博士(文学)	1	1	2	2	1	3	9	9	18	23	301	1,307
	0	1	1	0	0	0	3	4	7	8		
博士(教育学)	0	0	0	0	0	0	4	3	7	7	-	331
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2		
博士(法学)	0	0	0	0	0	0	10	3	13	13	126	466
	0	0	0	0	0	0	3	3	6	6		
博士(経済学)	0	0	0	0	0	0	7	3	10	10	80	805
	0	0	0	0	0	0	2	2	4	4		
博士(理学)	5	2	7	1	0	1	98	10	108	116	1,073	6,376
	3	2	5	0	0	0	15	4	19	24		
博士(医学)	8	0	8	10	1	11	44	19	63	82	5,742	11,046
	1	0	1	0	0	0	4	5	9	10		
博士(医科学)	1	0	1	0	0	0	4	3	7	8	-	177
	1	0	1	0	0	0	3	2	5	6		
博士 (社会健康医学)	0	0	0	1	0	1	1	3	4	5	-	153
	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1		
博士 (人間健康科学)	2	0	2	0	2	2	1	2	3	7	-	145
	1	0	1	0	1	1	0	1	1	3		
博士(薬学)	0	0	0	0	0	0	4	1	5	5	308	1,188
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
博士(薬科学)	0	0	0	0	0	0	12	5	17	17	-	224
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
博士(工学)	4	1	5	5	1	6	74	18	92	103	1,380	6,923
	1	1	2	0	1	1	29	17	46	49		
博士(農学)	2	0	2	0	2	2	24	10	34	38	641	3,374
	1	0	1	0	1	1	6	4	10	12		
博士 (人間・環境学)	2	0	2	0	1	1	24	13	37	40	-	1,231
	2	0	2	0	0	0	4	6	40	12		
博士 (エネルギー科学)	1	0	1	0	2	2	12	2	14	17	-	526
	1	0	1	0	2	2	7	1	8	11		

大学の
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	旧制授与者数	累計
	2025年11月			2026年1月			2026年3月					
	男子	女子	中計	男子	女子	中計	男子	女子	中計			
博士(地域研究)	0	1	1	0	0	0	7	9	16	17	-	368
	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3		
博士(情報学)	0	1	1	4	0	4	20	1	21	26	-	968
	0	1	1	1	0	1	8	1	9	11		
博士(総合学術) ^{※1}	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
博士(生命科学)	1	2	3	1	0	1	3	5	8	12	-	562
	1	2	3	0	0	0	0	2	2	5		
博士(総合学術) ^{※2}	0	0	0	0	0	0	6	1	7	7	-	54
	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3		
博士(地球環境学)	0	0	0	1	1	2	5	4	9	11	-	294
	0	0	0	1	0	1	2	4	6	7		
博士(経営科学)	0	0	0	0	0	0	5	2	7	7	-	45
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
博士(ゲノム医学)国際連携	0	0	0	0	0	0	1	2	3	3	-	7
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2		
総計	27	8	35	25	11	36	375	128	503	574	9,651	36,572
	12	7	19	2	5	7	93	60	153	179		

※留学生数は在留資格「留学」のみ

※1：情報学研究科 ※2：総合生存学館

■論文博士

学位名	学位授与者数									総計	累計
	2025年11月			2026年1月			2026年3月				
	男子	女子	中計	男子	女子	中計	男子	女子	中計		
博士(文学)	1	0	1	1	0	1	0	1	1	3	681
博士(教育学)	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	188
博士(法学)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	205
博士(経済学)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	409
博士(理学)	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1,590
博士(医学)	2	1	3	4	1	5	11	1	12	20	2,382
博士(医科学)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
博士(社会健康医学)	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	22
博士(人間健康科学)	1	0	1	0	0	0	0	1	1	2	17

大学の
動き

学位名	学位授与者数									総計	累計
	2025年11月			2026年1月			2026年3月				
	男子	女子	中計	男子	女子	中計	男子	女子	中計		
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	774
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
博士（工学）	0	0	0	0	0	0	4	0	4	4	4,226
博士（農学）	0	0	0	1	0	1	1	1	2	3	2,938
博士（人間・環境学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	58
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	34
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97
博士（生命科学）	0	1	1	0	1	1	1	0	1	3	37
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	21
総計	4	2	6	7	2	9	20	7	27	42	13,762

■博士課程教育リーディングプログラム（課程博士授与者の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数 [*] ）									総計	累計
	2025年11月			2026年1月			2026年3月				
	男子	女子	中計	男子	女子	中計	男子	女子	中計		
大学院思修館	0	0	0	0	0	0	6	1	7	7	57
	0	0	0	0	0	0	3	0	3	3	
グローバル生存学 大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
充実した健康長寿社会 を築く総合医療開発 リーダー育成プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
デザイン学大学院連携 プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
霊長類学・ワイルドラ イフサイエンス・リー ディング大学院	0	0	0	0	0	0	2	4	6	6	41
	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	
総計	0	0	0	0	0	0	8	5	13	13	212
	0	0	0	0	0	0	4	1	5	5	

※留学生数は在留資格「留学」のみ

■卓越大学院プログラム（課程博士授与者の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数 [*] ）									総計	累計
	2025年11月			2026年1月			2026年3月				
	男子	女子	中計	男子	女子	中計	男子	女子	中計		
先端光・電子デバイス創 成学	0	0	0	0	0	0	5	1	6	6	58
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	

大学の
動き

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2025年11月			2026年1月			2026年3月				
	男子	女子	中計	男子	女子	中計	男子	女子	中計		
メディカルイノベーション	0	0	0	1	0	1	2	2	4	5	25
	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	
プラットフォーム学	0	0	0	0	0	0	4	2	6	6	14
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
総計	0	0	0	1	0	1	11	5	16	17	97
	0	0	0	0	0	0	0	4	4	4	

※留学生数は在留資格「留学」のみ



式辞を述べる湊総長



大学院学位授与式の様子

(学務部(学務課))

[目次に戻る ↩](#)

令和8年度学部入学式を挙行

2026年4月7日(火)に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、山極壽一 前総長、国立研究開発法人国際農林水産業研究センタープロジェクトリーダーの辻本泰弘様、プロボスト、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和8年度学部入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞、辻本様による来賓祝辞がありました。

今年度の学部入学者数は次のとおりです。

令和8年度 学部入学者数

令和8年4月1日現在

区分	一般入試(前期)		特色入試		外国学校出身者選抜		外国人留学生特別選抜		学士入学		編入学		総計	
	男子	計	男子	計	男子	計	男子	計	男子	計	男子	計	男子	計
	女子		女子		女子		女子		女子		女子		女子	
総合人間学部	100	118	2	4	0	0	0	2	0	0	0	0	102	124
	18		2		0		2		0		0		22	
文学部	128	214	2	9	0	0	0	0	0	1	0	0	130	224
	86		7		0		0		1		0		94	

大学の 動き

区 分	一般入試 (前期)		特色入試		外国学校 出身者選抜		外国人留学 生特別選抜		学士入学		編入学		総 計	
	男子	計	男子	計	男子	計	男子	計	男子	計	男子	計	男子	計
	女子		女子		女子		女子		女子		女子		女子	
教育学部	31	56	0	3	0	0	0	1	0	0	1	4	32	64
	25		3		0		1		0		3		32	
法学部	221	315	6	16	1	7	1	2	0	0	2	3	231	343
	94		10		6		1		0		1		112	
経済学部	188	229	8	15	1	3	2	3	0	0	1	2	200	252
	41		7		2		1		0		1		52	
理学部	255	276	17	36	0	0	7	9	0	0	0	0	279	321
	21		19		0		2		0		0		42	
医学部 (医学科)	83	105	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	84	109
	22		3		0		0		0		0		25	
医学部 (人間健 康科学科)	39	76	2	25	0	0	0	0	0	0	2	5	43	106
	37		23		0		0		0		3		63	
薬学部	53	81	0	3	0	0	1	4	0	0	0	0	54	88
	28		3		0		3		0		0		34	
工学部	846	920	19	36	0	0	26	44	0	0	2	4	893	1,004
	74		17		0		18		0		2		111	
農学部	189	283	10	20	0	0	2	4	0	0	0	0	201	307
	94		10		0		2		0		0		106	
総 計	2,133	2,673	67	171	2	10	39	69	0	1	8	18	2,249	2,942
	540		104		8		30		1		10		693	



式辞を述べる辻本氏



式典に臨む入学生

(学務部 (学務課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

令和8年度大学院入学式を挙行

2026年4月7日(火)に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、プロボスト、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和8年度大学院入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。

今年度の大学院入学者数は次のとおりです。

令和8年度 修士課程入学者数

令和8年4月1日現在

区分	入学			転入学			総計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	79 (10)	36 (5)	115 (15)	0	5	5	79 (10)	41 (5)	120 (15)
教育学研究科	16 (3)	27 (2)	43 (5)	0	0	0	16 (3)	27 (2)	43 (5)
法学研究科	5 (2)	4 (4)	9 (6)	0	0	0	5 (2)	4 (4)	9 (6)
経済学研究科	46 (13)	20 (7)	66 (20)	0	0	0	46 (13)	20 (7)	66 (20)
理学研究科	276 (8)	43 (1)	319 (9)	0	0	0	276 (8)	43 (1)	319 (9)
医学研究科(医科学専攻等)	11 (2)	13 (6)	24 (8)	0	0	0	11 (2)	13 (6)	24 (8)
医学研究科(人間健康科学系専攻)	24 (1)	50 (1)	74 (2)	0	0	0	24 (1)	50 (1)	74 (2)
薬学研究科	39 (0)	21 (1)	60 (1)	0	0	0	39 (0)	21 (1)	60 (1)
工学研究科	634 (31)	87 (9)	721 (40)	0	0	0	634 (31)	87 (9)	721 (40)
農学研究科	204 (16)	130 (12)	334 (28)	0	0	0	204 (16)	130 (12)	334 (28)
人間・環境学研究科	100 (20)	61 (21)	161 (41)	0	1	1	100 (20)	62 (21)	162 (41)
エネルギー科学研究科	132 (7)	12 (0)	144 (7)	0	0	0	132 (7)	12 (0)	144 (7)
情報学研究科	195 (16)	18 (7)	213 (23)	0	0	0	195 (16)	18 (7)	213 (23)
生命科学研究科	33 (4)	25 (0)	58 (4)	0	0	0	33 (4)	25 (0)	58 (4)
地球環境学舎	16 (3)	20 (6)	36 (9)	0	0	0	16 (3)	20 (6)	36 (9)
総計	1,810 (136)	567 (82)	2,377 (218)	0	6	6	1,810 (136)	573 (82)	2,383 (218)

※()内は、外国人留学生(留学ビザ留学生)で、内数

令和8年度 専門職学位課程入学者数

令和8年4月1日現在

区分	入学		
	男	女	計
法学研究科(法科大学院)	97 (0)	61 (0)	158 (0)
医学研究科	11 (0)	13 (0)	24 (0)
公共政策教育部	34 (1)	5 (1)	39 (2)
経営管理教育部	44 (11)	48 (12)	92 (23)
総計	186 (12)	127 (13)	313 (25)

※()内は、外国人留学生(留学ビザ留学生)で、内数

大学の
動き

令和8年度 博士（後期）課程入学者数

令和8年4月1日現在

区分	進学		入学		編入学		再入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
文学研究科 博士後期課程	25(4)	40(7)	0	0	7(2)	12(4)	0	0	32(6)	52(11)
	15(3)		0		5(2)		0		20(5)	
教育学研究科 博士後期課程	9(2)	15(2)	0	0	2(0)	2(0)	0	0	11(2)	17(2)
	6(0)		0		0		0		6(0)	
法学研究科 博士後期課程	10(3)	10(3)	0	0	12(5)	17(9)	0	0	22(8)	27(12)
	0		0		5(4)		0		5(4)	
経済学研究科 博士後期課程	16(2)	23(7)	0	0	4(0)	4(0)	0	0	20(2)	27(7)
	7(5)		0		0		0		7(5)	
理学研究科 博士後期課程	105(7)	122(7)	0	0	16(2)	18(2)	0	0	121(9)	140(9)
	17(0)		0		2(0)		0		19(0)	
医学研究科 博士後期課程	9(3)	16(6)	0	0	7(0)	14(1)	0	0	16(3)	30(7)
	7(3)		0		7(1)		0		14(4)	
医学研究科 博士課程(四年) ^{*1}	0	4(0)	110(11)	167(32)	0	0	0	0	110(11)	171(32)
	4(0)		57(21)		0		0		61(21)	
医学研究科(人間 健康科学系専攻) 博士後期課程	6(1)	13(3)	0	0	9(4)	13(7)	0	0	15(5)	26(10)
	7(2)		0		4(3)		0		11(5)	
薬学研究科 博士後期課程	7(0)	12(0)	0	0	5(2)	7(3)	0	0	12(2)	19(3)
	5(0)		0		2(1)		0		7(1)	
薬学研究科 博士課程(四年)	0	0	4(0)	5(0)	0	0	0	0	4(0)	5(0)
	0		1(0)		0		0		1(0)	
薬学研究科 博士課程(一貫)	0	0	10(0)	11(0)	0	0	0	0	10(0)	11(0)
	0		1(0)		0		0		1(0)	
工学研究科 博士後期課程	85(11)	96(14)	0	0	41(8)	53(14)	0	0	126(19)	149(28)
	11(3)		0		12(6)		0		23(9)	
農学研究科 博士後期課程	33(6)	49(9)	0	0	23(8)	28(10)	0	0	56(14)	77(19)
	16(3)		0		5(2)		0		21(5)	
人間・環境学研 究科 博士後期課程	24(9)	39(13)	0	0	9(2)	17(5)	0	0	33(11)	56(18)
	15(4)		0		8(3)		0		23(7)	
エネルギー科学研 究科 博士後期課程	8(0)	9(0)	0	0	2(1)	2(1)	0	0	10(1)	11(1)
	1(0)		0		0		0		1(0)	

大学の
動き

区分	進学		入学		編入学		再入学		総計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
アジア・アフリカ 地域研究研究科 博士課程(一貫)	0	0	14(1)	25(1)	4(1)	7(4)	0	1(0)	18(2)	33(5)
	0		11(0)		3(3)		1(0)		15(3)	
情報学研究科 博士後期課程	21(8)	27(9)	0	0	18(2)	19(2)	0	0	39(10)	46(11)
	6(1)		0		1(0)		0		7(1)	
生命科学研究科 博士後期課程	13(3)	25(4)	0	0	4(1)	8(2)	0	0	17(4)	33(6)
	12(1)		0		4(1)		0		16(2)	
地球環境学舎 博士後期課程	1(0)	2(1)	0	0	1(1)	3(3)	0	0	2(1)	5(4)
	1(1)		0		2(2)		0		3(3)	
経営管理教育部 博士後期課程	0	0	0	0	6(0)	7(0)	0	0	6(0)	7(0)
	0		0		1(0)		0		1(0)	
総合生存学館 博士課程(一貫)	0	0	1(0)	3(0)	4(0)	10(2)	0	0	5(0)	13(2)
	0		2(0)		6(2)		0		8(2)	
総計	372(59)	502(85)	139(12)	211(33)	174(39)	241(69)	0	1(0)	685(110)	955(187)
	130(26)		72(21)		67(30)		1(0)		270(77)	

※1の進学者は、本学他研究科修士課程または専門職課程修了後、当該課程に進学した者

※()内は、外国人留学生数(留学ビザ留学生)で内数



大学院入学式の様子



式辞を述べる湊総長

(学務部(学務課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

京都インターナショナルスクールとMOUを締結

2026年3月17日(火)に、京都インターナショナルスクールと、教育、研究、イノベーションの機会を拡大するとともに、京都が国際的な学術拠点となることに貢献するためにMOUを締結しました。

今後、合意した連携・協力事項をより効果的に機能させるため、具体的な取り組みや実施方法などについて、定期的に協議を行い、さらなる連携を推進していきます。



締結の様子

(成長戦略本部)

[目次に戻る](#)

第12回京都大学-稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催

第12回京都大学-稲盛財団合同京都賞シンポジウムを、2026年2月15日(日)にJPタワーホール&カンファレンスにて開催しました。本シンポジウムは2014年から毎年開催しているもので、一般市民、高校生、研究者など合わせて262名の参加者がありました。

今回は、「AIは〇〇できるようになるか?」を統一テーマとして、湊 真一 情報学研究科教授・副研究科長、河原達也 情報学研究科教授、大武美保子 理化学研究所革新知能統合研究センターチームディレクターの3名が講演を行いました。講演では、人工知能(AI)の技術の発展や、AIにとっての得意・不得意、AIを活用した消滅危機言語の保存・継承、認知症予防のために開発した会話支援ロボットなど、幅広いトピックが語られました。

講演後には、国谷裕子 東京藝術大学理事をモデレーターとして迎え、講演者によるパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、参加者からの質問に対して、それぞれの研究者の立場から見解が述べられたほか、AIの進化と普及が人間の生活に及ぼす影響や、AIを活用するうえでのリスクなどが話し合われました。

参加者からは、「それぞれの講演において、AIについての基本的構造だけでなく、新しい発見や知識の修正があり、有意義でした」、「専門的で難しい点があるにもかかわらず、わかりやすい説明、かつ身近な問題として捉えやすく大変興味をもちました。研究はさまざまな形で引き継がれ広がりをもっていると感じ、今後も世代を超えて情報を共有していきたいと思いました」といった感想が寄せられ、盛況のうちに終了しました。



湊教授



河原教授



大武チームディレクター

大学の
動き



国谷理事



パネルディスカッション



集合写真

【関連リンク】

本シンポジウムの動画を、以下のWebサイトで公開しています。

京都大学-稲盛財団合同京都賞シンポジウム

<https://kuip.hq.kyoto-u.ac.jp/>

(成長戦略本部)

[目次に戻る ↗](#)

2025年度「女子学生チャレンジプロジェクト」成果発表会を開催

2026年3月18日(水)に、2025年度「女子学生チャレンジプロジェクト」に採択された4チームによる成果発表会を開催しました。

当日は、同プロジェクトの企画、審査に携わった男女共同参画推進センター専門部会の委員をはじめとする関係者が参加しました。

平山朋子 理事補の挨拶に続き、各チームが自身の興味関心に基づいて設定した研究テーマへの課題探求の成果を発表しました。いずれもチームで協働して取り組んだ意欲的な内容で、会場からは活発な質問も寄せられました。



平山理事補による挨拶

大学の
動き

終わりに、稲垣恭子 理事・副学長から、「このプロジェクトで得た経験を自分のこれからの研究に引き継いで、社会課題の解決につなげていていただきたい」とのエールが送られました。



学生による発表 1

学生による発表 2

学生による発表 3

学生による発表 4



稲垣理事・副学長による全体講評

(DEIB 推進室)

[目次に戻る ↗](#)

「京都大学ポスターセッション2025」を実施

教育改革戦略本部附属高大接続・入試センター主催による「京都大学ポスターセッション」を、2026年3月14日(土)に、百周年時計台記念館国際交流ホールにて実施しました。同企画は、ポスター発表を通じて高校生が日頃の課題探究活動の成果を披露するもので、2017(平成29)年度から通算9回目の開催となります。

2025年度は、全国の国公立私立高校30校から148名が参集し、文系理系あわせて30テーマのポスターが出展されました。発表生徒たちは綿密な打ち合わせを行い、プレゼンテーションの最終確認や質疑応答のリハーサルを重ねました。本番を目前に控え、会場は適度な緊張感に包まれていました。

発表本番では、自作器具を用いたプレゼンテーションの補足や、理解を深めるためのレジュメ配布など、多彩な工夫がみられました。生徒たちは研究成果を堂々と発表したほか、他校の発表に対しても真摯な姿勢で質疑応答や評価を行っており、「未来の科学者」としての高い意識がうかがえました。

プレゼンテーション終了後、参加者全員による投票結果と複数の高校教員による審査意見に基づき、3校を優秀ポスター賞に選出しました。閉会式では、村上 章 高大接続・入試センター

大学の
動き

長による全体講評が行われ、研究力を醸成するための助言が送られるとともに、課題探求活動に携わる高校教員の人々へ謝意が述べられました。

< 優秀ポスター賞受賞校 >

●京都府立南陽高等学校

・研究テーマ

「木津川流域を豪雨災害から守れ！～過去の災害記録と聞き取り調査から作成した真のハザードマップ～」

・講評

聞き取り調査、アンケート、ジオラマを使用した検証など研究テーマに対して誠実に深く追究していた。大変感動的なできばえであったといえる。

・受賞コメント

優秀ポスター賞の受賞に対し、感謝の意を示した。同研究は、過去の災害記録と体験者の証言をもとに、洪水ハザードマップを作成したものである。学校内での活動に限らず、現地フィールドワークや聞き取り調査、防災フォーラムの実施など、地域住民との連携（シチズンサイエンスの視点）を大切にしている。

●大阪教育大学附属高等学校池田校舎

・研究テーマ

「多価陽イオン架橋を用いたカゼインプラスチックの創製と実用可能性」

・講評

全体的に人々の生活にかかわる内容で、分かりやすく今後に期待がもてるものであった。当日のプレゼンテーションも明瞭な説明であり、ポスターの記載内容も理解を促すものとなっていた。

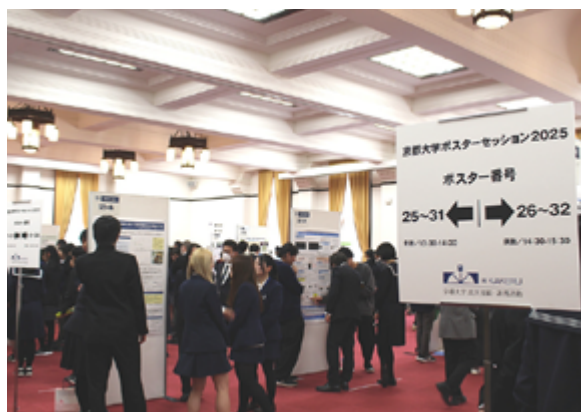
・受賞コメント

受賞の光栄を語った。同研究では、環境問題の解決に貢献することを目指し、生分解性プラスチックであるカゼインプラスチックの改良に取り組んできた。ポスターセッションでは多くの質問や指摘があり、新たな視点や課題に気づく貴重な機会となった。また、同年代の人々の先進的な探究活動に触れたことも、大きな励みになったと述べた。

●長野県松本深志高等学校

・研究テーマ

「3Dプリンタを用いた簡易的な天体分光器の製作」



会場の様子



優秀ポスター賞受賞校の代表生徒

大学の
動き

・講評

身近にあるもので分光器を製作しており好感がもてた。研究の動機や目的が明確で、独自のアプリ開発など非常にレベルの高い研究内容であった。

・受賞コメント

素晴らしい賞を受賞できたことへの喜びを語った。先行事例が少ないため、設計・製作は手探りで苦心したが、京都大学でのポスターセッションで発表し、優秀ポスター賞という形で評価されるまでに完成させることができ、大変うれしく思うと述べた。

(学務部(入試企画課))

[目次に戻る ↗](#)

第5回現役留学生と卒業留学生が繋がる会「教えて先輩！卒業後の進路、そのリアル」(presented by 台湾留学生会)を開催

成長戦略本部では、2025年度より、世代を超えた留学生間のネットワーク構築の支援を目的として、各国・地域留学生団体との共催により、現役留学生(後輩)と卒業留学生(先輩)がつながるイベントシリーズ「教えて先輩！卒業後の進路、そのリアル」を展開しています。

第5回は台湾留学生会との共催で、2026年1月15日(木)に同大学国際科学イノベーション棟内linkhub@で開催しました。日本で活躍する卒業留学生2名をスピーカーに迎え、学部生、大学院生、研究生、日本語予備教育生を含む留学生など25名が参加しました。



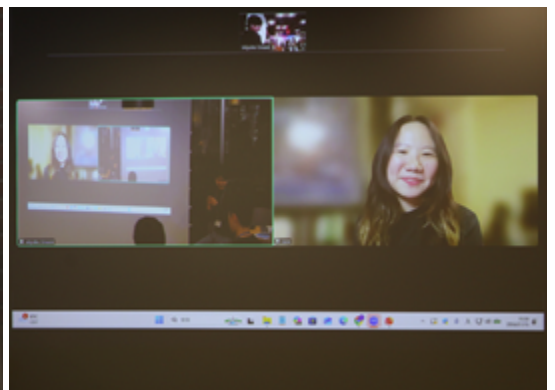
挨拶する Lo 会長

冒頭、成長戦略本部ソーシャルリレーションズ領域の担当者が、本イベントの趣旨を紹介しました。続いて、台湾留学生会会長のLo Yi Yueさん(経済学部・4回生)が、同会の紹介とスピーカーへの謝意を述べました。

第1部のトークセッションには、Huang Yin Jou 情報学研究科特定助教(情報学研究科・2021年修了)が対面で、国内企業に勤務するChang Yung Chia氏(医学研究科・2022年修了)がオンラインで登壇し、就職活動や学生時代の思い出などを語りました。続く質疑応答では、研究者・企業人それぞれの進路選択の考え方などをめぐり、参加者との間で活発なやり取りが



トークセッションに登壇する Huang 特定助教



オンラインでトークセッションに登壇する Chang 氏

大学の
動き

行われました。

第2部のネットワーキングセッションでは、台湾留学生会次期会長のChen Chao Chaoさん(工学部・1回生)の挨拶に続き、参加者が2つのグループに分かれて卒業留学生を囲み、対話を重ねました。最後に参加者全員が当日を振り返り、学びや気づきを相互に共有して、和やかな雰囲気の中にイベントは終了しました。

参加した留学生からは、「先輩との交流を通じて、キャリアに対する視野が広がった」などの感想が寄せられ、本イベントは卒業留学生と現役留学生が繋がりを深める意義深い機会となりました。



ネットワーキングセッションの様子



会場の様子



挨拶する Chen さん



集合写真

(成長戦略本部)

[目次に戻る](#)

Kyoto University SPIRIT2 Award 2026 の受賞者が決定

総合研究推進本部が企画・運営する学内ファンドプログラム「新領域創生研究支援事業(SPIRIT2)」は、本学の学術研究の質をさらに高め、多様性豊かな研究を育むことを目的として、2023年度に設立されました。同事業では、将来、世界的な存在感をもつ学術的新領域へと発展することが期待される萌芽的な研究を支援しています。

研究実績そのものではなく、独創的な構想力や着想力を評価の中心とすることを特色とするこの事業は、2025年度から「賞」として位置づけられています。人文社会科学から自然科学、基礎研究から応用研究に至るまで、あらゆる分野を対象として、新たな研究領域の創生を目指す意欲的な提案を募集しています。学内審査を経て選出された研究代表者には、研究推進担

当理事より「Kyoto University SPIRIT2 Award」が授与されます。

2026年度は、以下の10名が受賞しました。

● Kyoto University SPIRIT2 Award 2026 受賞者

氏名	所属部局名	研究課題名
緒方博之	化学研究所	細胞中心生命観を超えて：巨大ウイルスの増殖メカニズムから探る新生命原理
倉永英里奈	薬学研究科	ショウジョウバエを基盤とした高効率PDX創薬プラットフォームの創出：自然免疫がん細胞クリアランス機構の解明と薬効スクリーニング系の構築
篠原美都	医学研究科	生殖補助医療が世代を超えて子孫の神経系発達に及ぼす影響の解明とその予防
田中貴浩	理学研究科	ボトムアップによる量子重力へのアプローチ
Tian Yunchen	法学研究科	Rethinking Climate Migration as a Socio-Natural Process
延山知弘	高等研究院 (iCeMS)	液液相分離制御デバイスを用いた炭酸同化酵素の海水中活性化
野村紀通	生命科学研究科	脂質コードが駆動する膜蛋白質アロステリーの情報物理学：学理創出と創薬応用
峰尾恵人	化学研究所	「生き物に働きかけるものづくり」を正面から問う：生物素材生産様式論の創生
吉村 柁彦	高等研究院 (iCeMS)	化学遺伝学的手法による寄生植物の寄生全容の解明と制御
米田浩基	白眉センター (理学研究科)	宇宙・医療・産業を革新するリアルタイム MeV ガンマ線画像解析

(総合研究推進本部)

[目次に戻る ↗](#)



第21回京都大学附置研究所・センターシンポジウムを開催

研究連携基盤では、各研究所・センターの活動や生み出されている研究成果について広く一般社会に対してわかりやすく説明し、研究・教育活動、社会貢献活動への理解や支援・協力を得ることを目的として、年1回、全国主要都市で一般市民を対象とした公開シンポジウムを開催しています。本シンポジウムでは10年を1クールとし、各時代に即したテーマを掲げ、各分野の最先端研究を届けてきました。新しいクールが始まる節目(第21回)となる今回は、2026年3月15日(日)に百周年時計台記念館にて開催し(後援:京都府教育委員会、京都市教育委員会、読売新聞社)、オンライン参加も含めて約700名が参加しました。今回のテーマは、「知の交差点からみる自然 人間 社会」でした。

当日は、湊 長博 総長の開会挨拶に引き続き、午前は、近藤敬子 エネルギー理工学研究所准教授、高野祥太朗 化学研究所准教授、渡邊 翼 複合原子力科学研究所(粒子線腫瘍学研究センター) 准教授の講演が行われました。午後は、午前の講演への質問回答を挟み、菅原百合絵 人文科学研究所准教授、入江 慶 数理解析研究所准教授、原 千秋 経済研究所教授の講演と質問回答が行われました。

続くパネルディスカッションでは、中野伸一 研究連携基盤長の司会のもと、時任宣博 副学長、片平正人 副理事・エネルギー理工学研究所長と講師6名により、「多彩な知で世界と未来をナビゲート」のテーマで、「知の交差点」を取り上げて人生や研究の節目を振り返ったほか、多分野と交流する研究の可能性などについて活発な意見交換が行われ、最後に時任副学長の総括・挨拶で盛会の中、終了しました。

また、昼休憩時には、京都大学の所長・センター長はじめ教員たちと中高生などが昼食を取りながら質問や相談を行うコーナーを設け、多くの中高生などが研究や進路にまつわる相談



開会挨拶を行う湊総長



パネルディスカッションの様子



総括・挨拶を行う時任副学長



昼休憩時の中高生と本学教員との交流コーナーの様子



をするなど盛況となりました。参加者からは、「昼休憩の際に京都大学の先生方とお話をできたのがありがたかったです。幅広い分野の話が聞けて貴重な経験になりました」、「本当に面白かったです。実際の先生に会い、直接話を伺えたので良かったです。少しの間でしたが、講演された先生と昼休みに懇談させていただき誠にありがとうございました。『習慣化』すること（勉強、仕事）の大切さがわかりありがとうございます」、「普段あまり触れることのない学術的な内容に触れられて、とても有意義な体験となった。京大教授とじかに語り合うブースは、教授の考え方など知ることができてとても興味深かった」などの感想が寄せられました。

企画にあたっては、「平易性、おもしろさ、モチベーションの高揚」といった観点を重視し、講演内容は研究者自身の経験や、その研究を始めるに至ったエピソードを交えるなど、わかりやすいものとなるよう努めていますが、その成果の一端が垣間見えた形となりました。

(研究連携基盤)

[目次に戻る ↗](#)

第9回京都大学－マヒドン大学 On-site Laboratory ワークショップを現地とオンラインのハイブリッドで開催

「第9回京都大学－マヒドン大学 On-site Laboratory ワークショップ」を2026年2月20日（金）および21日（土）に現地とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

本学は、指定国立大学法人構想の柱の一つとして掲げる「柔軟かつダイナミックな体制による知の創造」を実現する取り組みとして、海外の大学や研究機関と共同で現地運営型研究室（On-site Laboratory）を設置しています。地球環境学堂は、2018年からマヒドン大学と共に On-site Laboratory プログラムに参画し、京都大学 On-site Laboratory 「Mahidol 環境学教育・研究拠点」の活動を展開してきました。

地球環境学堂が主催する本ワークショップは、マヒドン大学サラヤキャンパス、カンチャナブリキャンパス、パヤタイキャンパスおよびオンラインで開催され、本学およびマヒドン大学を中心に研究者や学生140名（現地69名、オンライン71名）が参加しました。

2日間にわたり、4つのパラレルセッション（(1) 環境工学、(2) 農業・生態系、(3) 公衆衛生、(4) 化学工学）に分かれて、本学およびマヒドン大学双方の研究者による最近の研究成果や教育・研究活動の進展について情報交換が行われました。

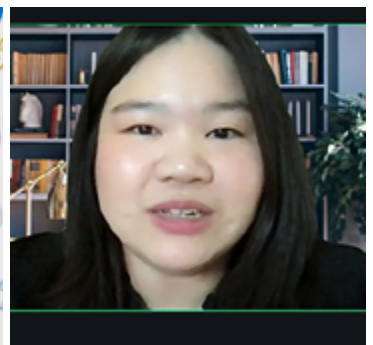
2日目には、河野泰之 副学長、西前 出 地球環境学堂副学長および Pattaraporn Posoknistakul マヒドン大学工学部副学部長による挨拶の後、全体での記念撮影が行われました。



河野副学長による挨拶



西前副学長による挨拶



Posoknistakul 副学部長による挨拶

部局の
動き

Plenary Sessionでは、各分科会のコーディネーターから分科会の内容について報告があり、分野を超えた情報共有や意見交換が行われました。また、ダブル・ディグリープログラムの拡充など、教育・研究における新たな協働について活発な議論を展開しました。



パラレルセッションの様子1 ((1) 環境工学)



パラレルセッションの様子2 ((2) 農業・生態系)



パラレルセッションの様子3 ((2) 農業・生態系)



パラレルセッションの様子4 ((3) 公衆衛生)



パラレルセッションの様子5 ((4) 化学工学)



田中地球環境学学長による閉会の辞



現地参加者記念撮影



最後に、Posoknistakul マヒドン大学工学部副学部長と田中千尋 地球環境学堂長による閉会の辞をもってワークショップは閉幕しました。

本ワークショップでは、昨年度に引き続き本学とマヒドン大学の共同研究および教育活動に関する活発な情報交換が行われ、研究・教育における協働の可能性について議論されるなど、非常に実りある機会となりました。

(大学院地球環境学堂)

[目次に戻る ↗](#)

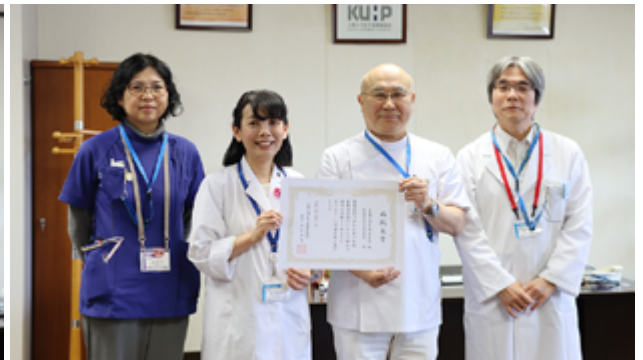
医学部附属病院が令和7年病院長賞表彰式を挙行

医学部附属病院は、2026年3月12日(木)、18日(水)に病院長賞表彰式を挙行了しました。

同賞は、同院における教育、研究、診療、管理運営などについて、極めて顕著な貢献があったと認められる若手教職員または診療科などを表彰する制度として設けられたものであり、令



受賞した光澤定己 整形外科外傷担当医師



受賞した医療安全管理委員会、医療安全小委員会のメンバー



受賞した手術部のメンバー



受賞した板谷喜朗 医療器材部副部長



受賞した膝島バンクメンバー



和7年は個人および団体の推薦の中から5組の受賞者が決定され、表彰されました。

表彰式では、高折晃史 医学部附属病院長より、受賞者および受賞内容について発表があり、表彰状が授与されるとともに、祝辞が述べられました。

(医学部附属病院)

[目次に戻る](#)

海外の大学間学生交流協定締結校への短期派遣プログラムを実施（インドネシア大学・ウィーン大学）

国際高等教育院では、海外の大学間学生交流協定締結校に同大学の学生を約2週間派遣する全学共通科目キャリア形成科目群「多文化教養演習：見・聞・知@～」を実施しています。このたび、インドネシア大学およびウィーン大学にて、それぞれ本学学生がスプリングプログラムに参加しました。

国際高等教育院では、夏（8～9月）と春（2～3月）に東アジア、東南アジア、欧州の協定校にて、全学共通科目「多文化教養演習：見・聞・知@～」を含む短期派遣プログラムを提供しています。これらのプログラムは、長期留学に向けた準備や、初めて海外の大学で学ぶ機会として幅広く活用されています。今後も、海外留学に関心のある本学学生の積極的な履修を期待しています。

【インドネシア大学】

2026年2月17日（火）から3月5日（木）にかけ、11名の学生がインドネシア大学にてスプリングプログラムに参加しました。



現地の学生との交流

渡航前には、事前語学授業と共同発表に向けたセミナーを実施しました。インドネシア大学到着後は、学生が海外学生向けのインドネシア語プログラムに参加したほか、語学授業に加えて伝統音楽ガムランの演奏実習や、伝統建築が保存されているテーマパークへの訪問を行いました。共同発表では、学生がそれぞれの専門分野に基づき、「インドネシアにおけるヒジャブの多面性」や「モスクにおけるケア・文化



ガムランの演奏



インドネシア大学での共同発表の様子

部局の
動き

再生産の調査」といった現地での実地調査に基づく成果発表を行いました。また、現地の学生との交流の場を設けるなど、実地研修ならではの学習機会を提供しました。

【ウィーン大学】

2026年3月1日(日)から3月15日(日)にかけ、15名の学生がオーストリアのウィーン大学にてスプリングプログラムに参加しました。

2025年度より全学共通科目として実施されたこのプログラムは、Wolfgang Mazal ウィーン大学教授が中心となり、「University of Vienna Spring Program: Glory, Tragedy and Recovery: Vienna 1888-2008」というテーマで実施されました。政治、都市化、音楽などの異なる学術的観点から、19世紀後半から21世紀前半におけるウィーンの歴史の変遷について学ぶ構成になっています。



ウィーン大学校舎にて

このプログラムでは、各分野の専門家による講義に加え、1365年創立のウィーン大学や周辺の歴史的建造物の視察を実施しました。ウィーン大学の創立記念日である3月12日(木)には、市中心部のシュテファン大聖堂で執り行われた式典への参列や、オーストリア=ハンガリー帝国時代からの歴史を持つ国会議事堂の内部見学など、このプログラムならではの行程を組み込みました。共同発表会においては、参加者が現地での実地調査に基づき、「京都とウィーンの公共交通の比較」や「ウィーンにおけるカフェ文化の意義」といったテーマで成果発表を行いました。



国会議事堂の見学



ウィーン大学での共同発表の様子

(国際高等教育院)

[目次に戻る ↩](#)



生態学研究センター、野生動物研究センター、フィールド科学教育研究センターおよびパナソニックホールディングス株式会社が、「生態フィールド学系産学学術交流会」を開催

2026年2月3日(火)に、生態学研究センター、野生動物研究センター、フィールド科学教育研究センターの主催、パナソニックホールディングス株式会社(以下、パナソニックHD)および成長戦略本部PHD未来創造部門の共催で、「生態フィールド学系産学学術交流会」をパナソニックHDの技術新棟「Technology CUBE」(大阪府門真市)にて開催しました。本交流会では、本学と連携する企業(株式会社モンベル、公益財団法人イオン環境財団、株式会社日建設計、パナソニックHD)からの記念講演の後、3グループに分かれてポスター発表交流会を行い、約130名が参加しました。

魚類や海産無脊椎動物の動態や生物多様性の解明、森林や土壌の生態系や物質循環・資源管理の研究、野生動物・霊長類の行動生態や保全生物学など幅広い研究テーマのポスターを掲示し、2.5時間かけてポスターセッションを行いました。パナソニックグループ草津工場「共存の森」における研究活動に関する発表や、モンベル、イオン環境財団からもそれぞれの活動に関する展示が行われました。ポスターの前では、研究者と大学院生、企業担当者が熱心に議論する様子が見られ、それぞれの研究を知るとともに、新たな研究テーマの模索や研究の拡充につながる流れが生まれました。

情報交換会では、はじめに小川立夫パナソニックHD執行役員・グループCTOから挨拶があり、終始なごやかな雰囲気の中、研究に関する意見交換が行われました。



渡辺賢二 株式会社モンベル 部長代理による記念講演



山本百合子 公益財団法人イオン環境財団専務理事兼事務局長による記念講演



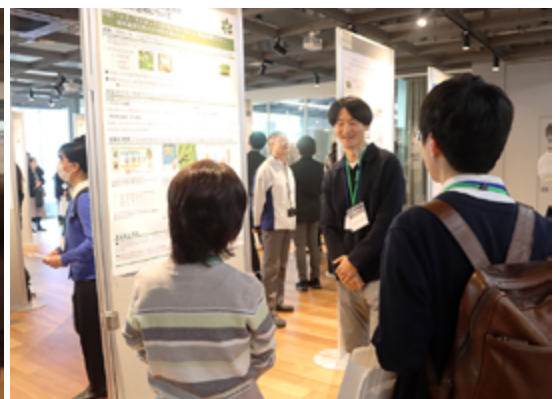
金香昌治 株式会社日建設計 部長による記念講演



小川執行役員・グループCTOによる記念講演



ポスター発表の様子1



ポスター発表の様子2

部局の
動き



モンベルおよびイオン環境財団による展示



コーヒープレイク



集合写真

(生態学研究センター、野生動物研究センター、フィールド科学教育研究センター)

[目次に戻る](#)

フィールド科学教育研究センターとパナソニックホールディングス株式会社が森里海連環学の推進およびネイチャーポジティブの実現に向けた連携を発表、寄付贈呈式を開催

フィールド科学教育研究センターとパナソニックホールディングス株式会社（以下、パナソニックHD）は、2026年3月11日（水）に、森里海連環学の推進およびネイチャーポジティブの実現に向けた連携協定を締結しました。本協定の締結により、同センターが有する長期的・広域



館野センター長と小川執行役員・グループ CTO



館野センター長から小川執行役員・グループ CTO へ感謝状を贈呈

部局の
動き

的なフィールド研究の知見と、パナソニックHDが保有する企業活動の場を掛け合わせることで、人材育成、研究、社会貢献、自然および生態系の保全といった分野における連携を深化させ、持続可能な社会の発展に寄与することを目指します。

本協定締結についての記者発表および寄付贈呈式を2026年4月3日(金)に開催し、館野隆之輔 フィールド科学教育研究センター長より小川立夫 パナソニックHD 執行役員・グループCTOに感謝状が贈呈されました。

両者はこれまでも、パナソニック社員向けに同センター教員が講義を行い、お互いを知るための研究交流を実施してきました。本協定を通じて両者の関係性をより深化させるべく、同センターの研究者が中心となって進めてきた炭素・窒素循環や環境DNAを軸とした生物多様性および生態系機能の評価手法を、パナソニックグループが滋賀県草津市に保有する「共存の森」や工場緑地などのフィールドに適用し、研究成果の社会実装や地域への波及効果創出につながる実践的な取り組みを展開していきます。



松村浩一 パナソニック HD 共創イノベーション 部長による事業連携説明 記者からの質疑応答



上賀茂試験地での調査の様子

(フィールド科学教育研究センター)

[目次に戻る ↩](#)



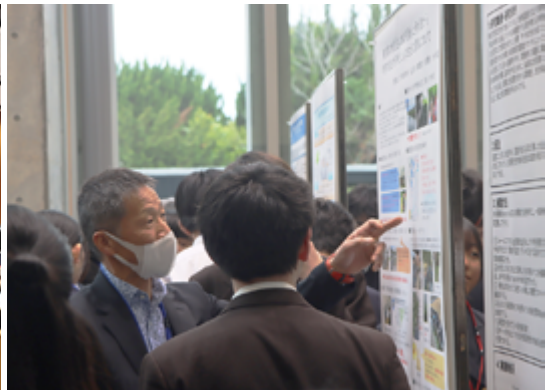
第10回森里海シンポジウム「身近な自然を見つめなおす～ネイチャーポジティブの実現に向けて～」を開催

フィールド科学教育研究センターと公益財団法人イオン環境財団は、2026年3月25日(水)に第10回森里海シンポジウム「身近な自然を見つめなおす～ネイチャーポジティブの実現に向けて～」をハイブリッド形式で開催しました。森里海連環学を通じた持続可能社会の創成を目指した本イベントは、北部総合教育研究棟益川ホールを会場として実施され、会場では午前136名、午後145名が参加しました。また、午後からのオンライン配信では110名が参加しました。

午前中にはプレ企画が開催され、全国17校から集まった高校生70名が、里山・里海をテーマとした日頃の研究成果を発表しました。発表内容は、水生生物の生態と保全、環境DNAや流域を通じた生物多様性の調査、さらに資源循環と身近な生物の利活用に関するものなど、多岐にわたる熱意あふれるものでした。本学教員および山本百合子 イオン環境財団専務理事兼



高校生による研究成果発表



ポスター発表の様子



講演する浅野准教授



講演する小森代表取締役



講演する山守助教



講演する八柳特任助教



講演する辻田課長補佐

部局の
動き

事務局長による審査の結果、優秀な発表に対して表彰が行われました。

午後のシンポジウムでは、「身近な自然を見つめなおす ～ネイチャーポジティブの実現に向けて～」のテーマのもと、浅野悟史 地球環境学堂准教授、小森優美 株式会社森を織る代表取締役、山守瑠奈 フィールド科学教育研究センター助教、八柳 哲 同特任助教、辻田香織 環境省自然環境局課長補佐の5名による講演が行われました。質疑応答では、質問用紙および会場の高校生からの口頭による積極的な質問に対し、登壇者が一つ一つ丁寧に回答しました。

参加者からは「海や川の生態系に対する関心が高まった」、「里山・里海が日常の身近な存在に思えてきた」といった感想が寄せられ、自身の生活と自然とのつながりを見つめ直す機会となりました。また、高校生も、第一線で活躍する若手研究者の講演や、他校の生徒との活発な意見交換を通じて、大きな刺激を得る場となりました。



グラフィックレコーディング



登壇者の集合写真



高校生の集合写真

(フィールド科学教育研究センター、生態学研究センター、
野生動物研究センター、大学院地球環境学堂)

[目次に戻る ↗](#)

木を彫り、木に聞く

村尾 和俊



大学卒業後、日本電信電話公社（現NTT株式会社）に入社した。NTT京都支店長時代に、各社の支店長仲間と相談し、自己研鑽の場として「転勤族の会（聞風会）」を創設した。京都のお寺を会場にして、高名な先生方から日本の伝統文化である座禅、お香、生け花、漆塗、京染、能面、水墨画など多彩なテーマを教えていただく中で、グローバル化が急速に進む時代だからこそ「日本文化を語れるようになりたい」と思うようになった。

その後、企業経営の現場で幾多の試練にも向き合ってきたが、NTTグループを退職したとき、京都支店時代に各方面の大先輩から教わったことが、ふと心に蘇ってきた。「伝統文化を学びつつ、心の豊かさを求めていきたい」と思うようになり、あれこれと模索する中で出会ったのが「仏像彫刻」であった。

ある寺院にゆかりのある大仏師が仏像彫刻の教室を開いておられるとお聞きし入会した。大仏師からは「一体の仏像がこの世に生まれるには多くの要素が必要となる。美しい木目に刻まれた大自然の息吹と歴史を木の香の中に“聴き”ながら、慈しみの心を形に表すのだ。」とお聞かせいただいていた。この「聴く・聞く」という表現は独特であり、職人や芸術家が素材と向き合う際の、対象の本質を見極めるための内面的な対話を示しておられるようだ。お香の世界でも「香りを聞く」と言うが、そこには微細な変化や余韻を心で味わう精神的な行為が含まれているようだ。まさに“look”や“smell”ではなく、“feel with one’s soul”と言うべき世界ではなかろうか。



村尾氏が彫り上げた「釈迦如来坐像」

更に、大仏師は「仏師は、立派な木を壊して仏を彫る。だからこそ彫る木そのものや削り取った木片にも祈りを込めて向き合う。木の個性を殺さず、癖を生かす。人も木も、育て方・生かし方は同じである。」と語られている。また彫り方でご指摘されるのは「最初は細部の彫刻にこだわらず、まず全体のバランスを考えながら荒彫りすること」。しかし気がつくと細部に入り込んで、バランスの悪い姿になっていることが多い。大仏師のご指導は社会生活での生き様や、人材育成においても通ずるものであり、その底流を流れる哲学として息づいているのではなかろうか。

仏像彫刻を始めて満5年。月2回教室に通いながら、これまでに仏像3体（地藏菩薩立像、白衣観音立像、誕生釈迦立像）を彫り上げ、最近4体目となる「釈迦如来坐像」を完成させた。大仏師の言葉を念頭に置き、日常生活での行動や組織運営に少しでも役立てたいと思いながら過ごしている日々である。

（むらお かずとし、西日本高速道路株式会社取締役会長、昭和51年法学部卒業）

[目次に戻る](#)

随想

ローマ散歩

名誉教授 林 信夫



今年の2月下旬、コロナ禍以降では初めてローマに行く機会を得た。到着翌日の早朝、散歩中に第6代の王セルウィウス Servius Tullius (伝紀元前579～535年) が築いたと伝わる城壁の一部が遺る付近を通った。リーウィウス T. Livius Patavinus (前1世紀中ごろ～後1世紀初め) は、同王が戸口調査を開始し、それを基礎にローマの住民を複数階層 *classis* に分け、同時に百人隊 *centuria* に分属させて序列化し諸義務を分担させる体制を整備し、市域を城壁などで囲んだと伝える (岩谷智訳『ローマ建国以来の歴史1』〔京都大学学術出版会2008年〕第1巻第42～43章)。リーウィウス文の歴史性には注意を要するものの、この城壁であろうと伝わるのが先の城壁である。後にフォルム *forum* と呼ばれる元々低湿地帯だった公共広場とその周辺の複数の丘からなるローマにいつ頃、どのような人々が集まってムラを形成し、いかなる経緯を経て国家と呼ばれる集合体へと展開させ、それにどのように制度や法が関係していたかについては、特に20世紀終わり頃以降の歴史学だけでなく、とりわけ考古学などの隣接学問の進展も相まって、なかなか初期ローマ社会の詳細が個人的にも定まらない。

先の城壁から現在のカザール通りを南西にいくと公共広場 (現フォロ・ロマーノ *Foro Romano*) に達するが、同じくリーウィウスは、ローマ初期における周辺諸都市、諸部族との戦い、支配領域の拡大、諸部族の編入とそれに伴う人口増大、そして社会を運営する諸制度の成立をも伝える。王政から、リーウィウスが「自由」や「法による統治」を特徴とみる政治形態たる共和政への前509年と伝えられる大きな変革のあと50年程して、十二表法 *Lex duodecim tabularum* がいわゆるケントゥリア民会 *comitia centuriata* で制定された (『前掲書2』〔2016年〕3,34)。「公法私法すべての源 *fons omnia publici privati que iuris*」と称される十二表法は、前5世紀のローマ社会の法を示すだけでなく、その後の法展開の基礎にもなるが、公共広場に掲示されていたと伝わる (同3,57) 条文は、前4世紀のガリア人の侵入時に失われたものの、キケロー *M. Tullius Cicero* をはじめとする後代の著述家たちによって個別に書き伝えられて、現在では仮説的とはいえ復元されている。簡潔な文章からなる十二表法の条文理解は、前6世紀末から5世紀初めのローマ社会の諸状況を理解しないと不十分になる、などと思いがら久しぶりのローマの朝の散歩を楽しんだ。

なお、この間のローマに変化がいくつかあったことに気づいた — たとえば路線バスで降りる際、以前は窓の外を凝視するか、周りのローマっ子が運転手にバス停を聞くかしかなかったが、今回車内に電光掲示板がついていた。しかし滞在最終日、地方都市からフィウミチーノ空港まで国内線に乗る必要があったが、当日朝早く航空会社から携帯に「便がキャンセルされた」と知らせが入り、「あっ、ここはイタリアだった」と思い出し、その後の対応が可能だったのは、イタリアに住んで身についた危機管理能力のおかげであった。

(はやし のぶお、平成25年退職、元大学院法学研究科教授、専門はローマ法)

[目次に戻る ↗](#)

洛書

5億年の実感

山岡 尚平



中学生の頃、宇宙論に憧れた。わずかな数式で全宇宙の事象を説明できる、数百億光年の広がりがあるようにして成り立ったのかが分かるという話に夢中になった。しかしほどなくして、自分には数学の才能がないことに気付いた。進路に迷っていると、ふだん科学に興味のない父が、もっと身近なことを学んではどうか、と言った。それで農学部に進学した。そこで様々な分野に興味をもったが、なかでも分子生物学に一番惹かれた。全ての生命現象を分子という言葉で説明できるという話に、宇宙論と似た魅力を感じた。

縁もあって、大学院ではゼニゴケの分子生物学に取り組んだ。ゼニゴケは、葉のようなからだが二叉分枝を繰り返して成長する。そして「傘」のようなかたちの生殖器を出して受精を行う。教科書によると、コケは、花の咲く植物(被子植物)と共通の祖先をもち、約5億年前に他の植物と分かれて独自に進化してきたという。しかし、菜の花などとはまるで違うゼニゴケの姿を見て、進化の話は実感が湧かなかった。一方で、シンプルに見える個体発生の様子から、これを調べれば何か原理的なことを導き出せるのではないかと思った。なによりも、シャーレの中のゼニゴケは、緑色が引き立って美しく見えた。それで懸命に実験した。いま思えば、もっとスマートに研究を進められたかもしれない。

それでも情念だけは通じたのか、それまで野外でしか見ることのできなかった「傘」を、実験室の中で常にいくつも出し続けるゼニゴケの変異株を得ることができた。この原因を調べれば、生殖に関わる新奇な遺伝子を発見できると期待した。しかし、その「傘」は、コケの中でもゼニゴケの仲間にはみられない特有の器官であることも知った。大部分が未知のコケの生殖機構を明らかにできるチャンスではあったが、ゼニゴケに限られた話かと物足りなくも思った。

紆余曲折の末、その遺伝子を見つけた。ゼニゴケ特有のはずであったが、なぜか、ほとんど全ての植物のゲノムの中に、相同な遺伝子が見つかった。理由はすぐにわからなかったので、あまり期待することなく、アブラナ科シロイヌナズナがもつ、その相同遺伝子の働きを調べてみた。するとそれは、花粉の中の精子(精細胞)をつくり出すのに不可欠であることがわかった。顕微鏡の下でその様子を見つけたときの興奮は、いまも忘れられない。ゼニゴケの遺伝子も、「傘」だけでなく、精子や卵をつくる働きをもっており、それは他のコケの遺伝子でも同様であった。つまり、コケと被子植物はどちらも、この遺伝子を使って配偶子をつくるということである。おそらくこの遺伝子は、植物の祖先のゲノムの中に出現し、植物が進化して多様化していく間、生殖のために受け継がれてきたのだろう。5億年にわたる植物の成り立ちの一端を、目の当たりにした気分になった。

こんな興奮を、次はいつ味わえるだろう。悶々としながら、今日もベンチに向かっている。

(やまおか しょうへい、大学院生命科学研究科准教授、
専門は植物生理学・植物分子細胞生物学)

[目次に戻る ↗](#)

栄誉

松田祐司 名誉教授、金光義彦 名誉教授および原田博司 情報学研究科教授が紫綬褒章を受章

このたび、松田祐司 名誉教授、金光義彦 名誉教授および原田博司 情報学研究科教授がそれぞれの研究分野における優れた業績により、紫綬褒章を受章されました。

以下、各氏の略歴を紹介します。

■松田祐司 名誉教授

松田名誉教授は、長年にわたり、極低温における物質の量子力学的性質を探究する凝縮系物理学の研究に精励され、電子やスピンの強く相互作用し合う量子多体系における新奇な量子状態の解明に大きく貢献してこられました。このような系では、個々の電子の振る舞いからは予測できない驚くべき性質や現象が創発されます。松田名誉教授は特に超伝導や量子物質の分野で顕著な成果を挙げられました。非従来型超伝導体（通常とは異なる仕組みで超伝導を示す物質）において、量子揺らぎに起因する量子臨界点および電子が自発的に結晶対称性を破る電子ネマティック状態の存在を世界に先駆けて明らかにし、非従来型超伝導が発現する機構の解明に大きく貢献されました。また量子磁性体、その中でも特に絶対零度でも磁気モーメントが凍結しない量子スピン液体の研究において、量子エンタングルメントに伴う電子スピンの分数化現象の発見など先駆的な業績を挙げられました。

これらの研究は基礎物理学として極めて高い学術的意義を有するのみならず、将来の量子技術を支える重要な基盤としても国際的に高く評価されています。さらに、多くの優秀な研究者の育成と国際的な学術交流の推進にも尽力されました。



松田名誉教授

■金光義彦 名誉教授

金光名誉教授・化学研究所特任教授は、長年にわたり、応用物理学における革新的な研究と教育に尽力し、新たな光機能を持つ半導体の基礎特性解明に多大な貢献を果たしてきました。特に、生産性と加工性に優れ次世代半導体材料として期待されている「ナノ結晶量子ドット」や「ハライドペロブスカイト」を研究対象とし、単一ナノ分光、フェムト秒時間分解分光、コヒーレント分光などの高度なレーザー分光技術を駆使して、ナノ結晶のエキシトンが関与する量子効果や多体効果、さらにペロブスカイト結晶特有の柔軟な構造に起因する新しい現象を次々と発見・解明しました。これらの先駆的な成果は、応用物理学における半導体光科学・光工学の新たな研究分野を確立・牽引するものです。

金光名誉教授の独創的な知見は、高効率な光電相互変換機能材料の開発とそのデバイスの実現に向けた新たな設計指針を与え、次世代太陽電池などの産業応用にも展開され、



金光名誉教授

栄誉

持続可能な社会の発展に貢献しています。その卓越した業績は、国際的な学術誌への多数の論文掲載や高い被引用回数に表れており、世界の研究者へ大きな影響を与えています。また、国際誌での総説執筆や専門書の編集・執筆も数多く手がけ、応用物理学・物質科学の発展に貢献をしています。

■原田博司 情報学研究科教授

原田教授は、各種無線通信システムを実現にむけた無線通信方式の研究開発に取り組み、特に長距離伝送が可能で同期性能に優れたパケットフレーム構造や低消費電力で動作し、中継機能を備えたスマートメーター向け無線通信方式「Wi-SUN」の研究開発により、科学技術の進歩のみならず国民生活の向上に大きく貢献しました。

原田教授は、Wi-SUNの研究開発成果を実機による実証を行うとともに、米国IEEE 802.15などにおいて、日本発の技術として米国および国内で標準化を主導しました。また、この規格を基盤として、メーカー間の相互接続性認証が可能とするグローバルアライアンスである「Wi-SUNアライアンス」を創設し、スマートメーター用の無線規格Wi-SUN HAN、Wi-SUN JUTA、Wi-SUN FANを規格化、商用化しました。Wi-SUN HANは、全国の電力会社のスマートメーターに主方式として採用され、数千万台規模で導入されています。また、開発したWi-SUN JUTA(F-RIT)もガスメーター向けとして大規模導入されています。さらに、Wi-SUN FANは世界各国でスマートメーターなどへの採用が進んでいます。また、このWi-SUNアライアンスは、現在46カ国、200社を超える会員で構成されるまでに成長し、スマートメーターリングを世界的な産業として確立させるだけでなく、スマートシティ分野などへの展開も進められています。Wi-SUN対応半導体を開発する企業も、日本企業を含み世界的に広がっており、新たな無線機市場の創出にも大きく貢献しました。



原田教授

(大学院理学研究科、化学研究所、大学院情報学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

栄誉

松波弘之 名誉教授、木本恒暢 工学研究科教授および西川博嘉 医学研究科教授が日本学士院賞を受賞

このたび、松波弘之 名誉教授、木本恒暢 工学研究科教授および西川博嘉 医学研究科教授が第116回（令和8年）日本学士院賞を受賞することになりました。日本学士院賞は、学術上特に優れた研究業績に対して贈られるもので、日本の学術賞としては最も権威ある賞です。

■松波弘之 名誉教授および木本恒暢 工学研究科教授

松波名誉教授は、1939（昭和14）年生まれ、京都大学大学院工学研究科博士号を取得後、同大工学部助教授、米国ノースカロライナ州立大学客員准教授、京都大学大学院工学研究科教授を経て、2003（平成15）年4月京都大学名誉教授の称号を受け、2018（平成30）年4月より京都先端科学大学 ナガモリアクチュエータ研究所 客員教授、2022（令和4）年4月より現在まで同大学特任教授を務めています。専門は半導体工学です。



松波名誉教授



木本教授

木本教授は、1963（昭和38）年生まれ、京都大学大学院工学研究科修士課程修了後、住友電気工業株式会社、京都大学工学部助手、スウェーデン国リンチョピン大学物理学科客員研究員、京都大学大学院工学研究科助教授を経て、2006（平成18）年4月より現在まで同大学院工学研究科教授を務めています。専門は、半導体工学です。

今回の日本学士院賞の研究題目は、「電力制御用炭化ケイ素素子の開発・実用化の研究（共同研究）」です。松波名誉教授と木本教授は、広禁制帯幅半導体である炭化ケイ素（SiC）の材料研究およびデバイス研究で多くの先駆的業績を挙げ、ケイ素（Si）による既存技術の限界、特に動作時の電力損失を格段に低減する革新的なSiCパワーデバイスを開発して世界を牽引しました。松波名誉教授は、1987（昭和62）年にステップ制御エピタキシー（SCE）法を世界で初めて提唱し、実現が困難とされていた炭化ケイ素の高品質単結晶化への道を開きました。その後、松波名誉教授と木本教授は、SCE法を用いて4H-SiCの結晶を再現性良く成長させることに成功し、従来の研究対象であった6H-SiCと比べ4H-SiCがパワーデバイスとして優れていることを発見しました。さらに木本教授は、4H-SiCを用いたショットキーバリアダイオードの実証化やSiCパワーデバイス製造にかかわる多くの基本技術の確立に貢献しました。現在SiC半導体の市場は成長を続け、電車の走行電力約3割の削減を達成し、今後は電気自動車の航続距離1割向上への貢献も期待されています。松波名誉教授と木本教授による研究は脱炭素社会の実現に不可欠な技術基盤を提供するものです。

なお、2名の卓越した業績に対し、松波名誉教授は、2002（平成14）年文部科学大臣賞（研究功績賞）、2013（平成25）年朝日賞、2016（平成28）年IEEE David Sarnoff Award、2017（平成29）年本田賞、2023（令和5）年IEEE Edison Medal 2023など、多数の賞が授与されています。木本教授は、2020（令和2）年文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）、同年山崎貞一賞、2024（令和6）年IEEE Andrew S. Grove Award、2025（令和7）年紫綬褒章、同年SSDM Award 2025など、多数の賞が授与されています。

栄誉

■西川博嘉 医学研究科教授

西川教授は、2002（平成14）年に三重大学大学院医学系研究科を修了し、医学博士の学位を取得しました。その後、三重大学医学部附属病院内科医員、米国スローン・ケタリング記念がんセンター博士研究員、三重大学大学院医学系研究科講師および准教授、大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任准教授を経て、現在は、国立がん研究センター研究所腫瘍免疫研究分野長ならびに先端医療開発センター免疫トランスレショナルリサーチ分野長、名古屋大学大学院医学系研究科教授および京都大学大学院医学研究科附属がん免疫総合研究センター教授を務め、多拠点で活動を展開しています。



西川教授

今回の日本学士院賞の研究題目は、「免疫ゲノムがん進展仮説の樹立とがん免疫精密医療への展開」です。西川教授は、患者生検組織などの微量な生体試料から生きたまま免疫細胞を抽出して保存・測定する手法を開発し、網羅的な免疫解析とゲノム解析を融合した統合解析を可能にしました。西川教授は、本手法をがん微小環境の解析に応用することで、がんのゲノム変異が細胞増殖に作用するだけでなく、同時に周辺免疫細胞にも働きかけ直接的に免疫逃避環境を誘導することを様々ながん種で証明しました。これらの研究成果から西川教授は、がん細胞のゲノム異常と周辺免疫細胞が互いに相互作用・選択圧を与えながら発がんおよびがんの進展が生じていると考え、その仕組みを「免疫ゲノムがん進展仮説」として提唱しました。この概念は、がん免疫学を大きく前進させ腫瘍生物学の新たな分野を開拓したといえます。さらに西川教授は本仮説に基づき、ゲノム変異を標的とした分子標的治療とがん免疫治療の融合（がん免疫精密医療）の技術基盤を新たに構築し、現在臨床応用に挑んでいます。

なお、西川教授の卓越した業績に対し、2020（令和2）年 American Association for the Advancement of Science (AAAS) Elected Fellow、2023（令和5）年 高松宮妃癌研究基金学術賞、2024（令和6）年上原賞など、多数の賞が授与されています。

（大学院工学研究科、大学院医学研究科）

[目次に戻る ↗](#)

話題

本学所蔵の『建内記』が重要文化財に指定

附属図書館および総合博物館が所蔵する古記録『建内記(けんないき)』(自筆本)が、2026年3月26日(木)の文化審議会の答申に基づき、新たに国の重要文化財(美術工芸品・古文書の部)に指定されることになりました。今後、官報での告示を経て正式に指定されます。

『建内記』は室町時代の政治・社会の情勢を伝える極めて貴重な史料です。今回の指定は、本学の上島 享 教授、大槻 信 教授らを中心とした「菊亭文庫」の網羅的な調査成果が結実したものです。調査は学外・学内の研究者、大学院生、附属図書館職員の協業でなされました。

『建内記』は、室町時代の貴族・内大臣の万里小路時房(までのこうじ ときふさ)の日記です。『建内記』は「けんないき」とも読み、時房の法号「建聖院」と彼の極官「内大臣」に由来します。現存するのは1414(応永21)年から1455(康正元)年のうちの17年分です。当時の朝廷・幕府政治の実像や土一揆の発生などを記録した重要史料として知られています。

今回重要文化財指定に指定されるのは、附属図書館が所蔵する自筆本17点(菊亭文庫)と総合博物館が所蔵する2点(元文学部国史研究室蔵)および関連史料である附(ついたり)1点(菊亭文庫)です。

図書館機構では、所蔵する貴重な古典籍資料をデジタル化し、研究者のみならず市民や世界中の人々も閲覧できるよう、オンラインで公開する取り組みを進めています。今回重要文化財に指定される『建内記』も、新たに「京都大学貴重資料デジタルアーカイブ」から公開を開始しました。

また、今回の重要文化財指定を記念し、2026年9月に、総合博物館を会場に『建内記』の展示および講演会を開催する予定です(展示会期:2026年9月2日から10月4日、講演会開催日:2026年9月30日)。



透漆塗桐俵鈍箱に入った『建内記』



『建内記』の巻頭部分

【関連リンク】

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ

<https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

(附属図書館、総合博物館)

[目次に戻る ↗](#)